新時代の地域医療

事業管理者　葉狩　一樹

令和という新しい時代を迎え、医療を取り巻く環境も地域医療構想、医師偏在、働き方改革など新たな変化が出てきています。国は、昨年唐突に診療実績が少ないことなどにより、再編・統合が必要な424の病院名を公表しました。当院は含まれていませんでしたが、決して安心とは言えません。今後も継続して当院を利用される皆さんへ医療サービスを提供していくため、地域の医療ニーズを十分把握しながら、地域の実情に合わせた病床再編を行う必要があります。

当院が積極的に取り組んでいる訪問診療・訪問看護などの在宅医療は、ますます加速する高齢化社会の中で重要な役割を担っていると考えています。このことから当院では、地域の皆さんが住み慣れた地域で安心して生活を送れるよう、一層の在宅医療の充実に努めてまいります。そして、一人ひとりに寄り添いながら、治す医療だけではなく住民の生活を支える「本町ならではの地域医療」の充実に向け、地域の皆さんに支えていただきながら、新たな時代の医療・介護・福祉を進めてまいります。

令和の時代を迎えて
～時代の変化と看護の視点～

看護部長　谷口　祐子

昨年度、平成の時代が終わり、新たな時代を迎えました。私自身を振り返ると、看護師として働きだして、約40年が経過しようとしています。この病院と共に自身の人生を歩み、成長させて頂いたと感慨深く皆さんに感謝しています。

入職した当初、当院は177床でした。その後、制度の変化や時代の流れに沿い、また、医師・看護職員の減少もあり、現在医療部門では、急性期病棟は52床、療養病棟は47床で運営しています。そのような変遷の中、看護体制を振り返ってみますと、患者50人とした場合、入職当時は20人、現在は15人の看護職員が必要という基準となっています。そして、今、医療提供体制も医療だけでなく、病院から地域へと幅広い看護の視点が求められる時代となりました。入院されている人だけでなく、病気を抱えながら、この地域で暮らす人々がその人らしく生活できるよう考えていくのが私たち看護職の役割と思っています。

また、介護保険制度開始と共に老健など介護部門を導入し、現在多くの介護職員も活躍しています。

今後も時代の流れに沿った制度の変化や地域の求めるニーズに即して、対応できる看護介護職の育成は必須です。

この地域に、この町に暮らす人たちに、「この病院があってよかった」と思っていただけるよう、地域医療を担う一員として、住民の皆さんに安心して頂ける質の高い看護介護の提供を目指し、日々研鑽し努力していきたいと思います。

智頭病院では、一緒に働いていただける仲間を募集しています。詳しくはＨＰをご覧いただくか、智頭病院事務部まで問合せください。

問合せ先　国民健康保険智頭病院　事務部　☎７５－３２１１